

株式会社 滋賀銀行

「お金の流れで地球環境を守る」環境経営

滋賀銀行は、2017年に11月に「しがぎんSDGs宣言」を地銀として初めて掲げた。「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を行是として掲げ、その経営理念には、地域社会・役職員・地球環境との共存共栄を掲げる同行にとって、SDGsへの取り組みは、「当然のことで、違和感もなかった」という。2019年2月には、「SDGs推進本部」が開催する「第2回ジャパンSDGsアワード」で、特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を金融機関として初めて受賞した。

同行は、地域経済の創造、地球環境の持続性、SDGsを担う人材の育成を3つの重点項目に据え、多様なアプローチでSDGsに取り組んでいる。

地域経済の創造では、「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」「SDGs私募債『つながり』」などの金融商品の展開に加え、「サタデー起業塾」の開催やGAP認証取得をサポートするなど、事業者へのコンサルティングサービスも積極的に実施している。このうち「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」では、SDGsに貢献する新規ビジネスに取り組む顧客の資金繰りや設備投資を支援、優遇金利での融資を行っている。事例としては、水質浄化技術を活用したフグの陸上養殖に取り組む企業への融資がある。独自技術により排水を行わずに水質を保ち、周辺環境に影響を与えずにコスト削減を実現した。この事業は、環境省が推進し、普及を目指すESG地域金融の先駆的実践例としても紹介されている。

地球環境の持続性では、お金の流れで地球環境を守る、「環境金融」の取り組みを進めている。独自に制定した「しがぎん琵琶湖原則」では、環境格付けを実施し、その評価によって優遇金利での融資を実施。「エコプラス定期預金」では、定期預金を行うと滋賀銀行が環境目的のある寄付や助成を実施している。こうした顧客に提供する金融商品を通じた取り組みに加えて、同行はエコオフィスづくりで銀行内の省資源・省エネルギーへの取り組みを進めるなど、自身の取り組みも積極的に行っている。

SDGsに取り組む地域銀行といえば滋賀銀行というほど、同行のブランドイメージは定着し

つつあるが、その裏には、地道な取り組みがある。SDGs宣言には構想から発表まで1年かかり、その間は社内の理解向上に努めたという。SDGsの基礎知識をイントラネットに掲載し、名刺の裏にSDGsのロゴを入れ、支店長以上は全員がSDGsバッジを着用した。名刺とバッジのロゴについて顧客に問われれば応えなければならないため、行員それぞれがSDGsについて学ばざるを得ない状況にした。また、SDGsを経営戦略に落とし込み、KPIも設定、公表することで、SDGs推進体制を整えた。

今後は、投融資先事業の環境・社会面の評価手法にさらに取り組みたいという。評価手法のノウハウをさらに蓄積・発展させることが今後の強みになると考えている。また、地域に資金が入り、それが循環することを何よりも重要視している。こうした視点で、滋賀県の中で、地域循環共生圏を創造する構想も推進しており、地域の様々なステークホルダーや環境省と取り組みを進めているという。人口減少による経済規模の縮小によって地域金融機関が、総体として厳しい経営状況下にある。そうした中、自らの強みを見出し、差別化を行うこと、新たなビジネスモデルを開発し、新たな市場を開拓することは不可欠である。そうした危機感もまた滋賀銀行の取り組みを推し進めている。

